

平成28年度

第61回 長野県中学校連合教科研究会

# 社会科

【目次】

I	研究テーマ	1
II	研究の趣旨	1
III	指導者名、参加者名および参加校テーマ一覧	1
IV	研究問題と協議内容	2
	第1分科会	2
	第2分科会	3
	第3分科会	5
	第4分科会	7
V	本年度の反省と来年度への方向	8
VI	あとがき	9

## I 研究テーマ

「社会的事象に対する見方や考え方を培い、表現していく社会科の学習はどうあったらよいか」

## II 研究の趣旨

生徒一人一人が主体的に課題を探究し、社会的事象に対する見方や考え方を深め、表現していく授業が実践できたかを、具体的な素材・教材から生徒の変容をとらえ、共有の財産としていきたい。また、具体的にどのような学習問題によって授業を実践していくことで、基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらを活用していく力、課題を探究していく力を育てることができるのかを究明していきたい。

## III 指導者名、参加者名および参加校テーマ一覧

	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
指導者	喜多 篤史先生（北信教事）	畑 邦弘先生（東信教事）	牧野 孝裕先生（中信教事）	田中 篤先生（南信教事）
司会者	井出 岳先生（中込中）	山浦 光雄先生（上田第二中）	和田 佳司先生（松代中）	白井 克典先生（南箕輪中）
記録者	中村 広登先生（阿南第二中）	中山 南斗先生（小諸東中）	武井 正樹先生（三郷中）	中村 大樹先生（穂高東中）

### 第1分科会

地区	学校名	氏名	研究テーマ
佐久 7	穂高東中	福島 恵	社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現する生徒の育成
佐久 15	鬼無里中	新井秀和	資料を的確に読み取り、社会的事象に対する見方や考え方を培い、表現していく社会科の学習はどうあったらよいか
上伊那 9	御代田中	安川輝暎	友とかかわり合うことで、多面的、多角的な視点から課題を解決する指導の工夫
下伊那 8	阿南第二中	中村広登	豊かな見方、考え方が育つ社会科学習のあり方
安曇野 1	高遠中	小坂美智男	子ども達が課題意識をもつ資料提示のあり方
長野 21	附属松本中	市田祐基	自分の暮らしと結び付けながら社会的事象の価値を見いだしていく社会科の学習
松本 25	附属長野中	麦島 隆	社会的事象の意義を解釈することのできる生徒の育成

### 第2分科会

地区	学校名	氏名	研究テーマ
佐久 16	立科中	小林祥平	生徒が主体的に学習に取り組むための手立ての研究
佐久 12	小諸東中	中山南斗	パフォーマンス評価により、「思考・判断・表現力」を評価可能にするための研究
上小 8	上田第二中	山浦光雄	生徒が実感を伴った言葉で語り合う授業づくりの研究
木曾 5	王滝中	武居康太	ホワイトボード黒板を用いて考えを可視化することにより授業を深める研究
塩筑 5	広陵中	水口伸一	「キャッチフレーズづくり」の活動を通して既習を生かす授業づくりの研究
長野 29	附属長野中	小池克昌	社会的事象の意義を解釈することのできる生徒の育成
松本 14	鉢盛中	黒沢美雪	明治維新をとらえるため、江戸時代と比較しながら4コママンガにまとめる授業展開の研究

### 第3分科会

地区	学校名	氏名	研究テーマ
上伊那 10	宮田中	白澤英敏	生徒のズレから生まれる学習問題と学習課題の成立について 社会認識のズレをどう見出すか
安曇野 3	豊科北中	吉澤省吾	必要感のあるグループ活動について 学びの「深まり」と評価について
北安 3	白馬中	手塚 亮	アクティブラーニングを通じて、思考力・判断力・表現力を育成する
長野 29	附属長野中	田中 優	社会的事象の意義を解釈することのできる生徒の育成
松本 5	信明中	中野直輝	豊かな学びあい、豊かな見方・考え方を育む社会科学習のあり方
松本 25	附属松本中	荻原 拓	自分の暮らしと結び付けながら社会的事象の価値を見いだしていく社会科学習

#### 第4分科会

地区	学校名	氏名	研究テーマ
佐久 8	浅間中	五味 晶	藤原氏が権力をもった理由として、天皇のかかわりに加え、他氏排斥という視点からも説明することができるようになるための指導のあり方
下伊那 15	飯田東中	宮尾 匠	生徒の学習意欲を喚起する素材と学習方法の組み合わせ
上伊那 2	高森中	三井裕樹	友との話し合いを通して、社会的事象を多面的・多角的に追究していく指導のあり方
安曇野 1	穂高東中	柳澤大介	社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現する生徒の育成
上高井 1	小布施中	長尾恭照	社会科の効果的な学習カードとは
長野 29	附属長野中	正木文華	社会的事象の意義を解釈することのできる生徒の育成
松本 25	附属松本中	新家 肇	自分の暮らしと結び付けながら社会的事象の価値を見いだしていく社会科学学習

#### IV 研究問題と協議内容

##### 【第1分科会】

##### 討議1 協働的な学習の場の位置付けについて

###### 1 レポート発表

- (1) 中世から近世へ時代の転換の様子を自分の言葉で表現するために、武士の違いに着目し、中世近世比較シートを用いた実践。(穂高東中)
- (2) 東北地方の単元を、産業を中核とした考察で構成し、山間地の少人数学級において友とかかわり合いながら追究させていく実践。(鬼無里中)
- (3) 現代の民主政治と社会の単元で、少子高齢化と民主政治を関連付けて今後の選挙制度のあり方を考える実践。(御代田中)

###### 2 協議

- (1) 「中世近世比較シート」は移り変わりや違いをとらえるためには有効だが、近世は江戸時代だけでなく、織豊期も含めて考えたい。
- (2) 東北地方を生活文化ではなく、産業を中核とした考察で見るのは新しい提案だが、あくまで産業という面を中核として、「東北地方の地域的特色をとらえる」学習でありたい。
- (3) 若者の投票人数が少ないから選挙制度を変えるという発想だけでなく、選挙に行く意味や価値に生徒が気付く主権者教育が必要である。

###### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 前の中世がどのような時代かを、生徒に文章で書かせてとらえさせ、それを振り返らせた上で中世と近世の転換の様子に気づかせたい。
- (2) 東北地方で産業が盛んな理由を農業や工業など、様々な東北地方の様子からとらえさせたい。
- (3) この単元では、自分が政治に対してどのようなかかわり方をするのか、自分達が投票することでどんな街づくりにつながるのかを考えさせたい。

##### 討議2 生徒が学び続けるための教材について

###### 1 レポート発表

- (1) 近代の大正時代を構造的にとらえるために、民衆の力に着目をした授業構想。(阿南第二中)
- (2) 奈良時代の単元において、平城京と長安の宮城の資料を比較することで、唐にならった国づくりをすすめていったことを理解することをねらった実践。(高遠中)
- (3) 日本の資源とエネルギーの単元において、「地球市民」に向けて、今後の日本の資源やエネルギーとのかかわり方を生徒が考える実践。(附属松本中)

###### 2 協議

- (1) 大正時代を取り上げて教材化をするのは新しい視点だが、単元の学習問題を立てる場面で民衆の「力」をより生徒が具体的にとらえると良かった。

- (2) 中学校の歴史学習では、小学校の既習事項を踏まえて意味や背景をとらえさせたい。生徒の考えを揺さぶるために資料提示のひと工夫も欲しい。
- (3) オープンエンドで終わる場合は評価が難しい。また、この単元は日本全体の特色をとらえるための大観的な内容で良いのではないか。

### 3 指導者の先生のご指導

- (1) ジグソー学習では、各々が調べたことをどう関連付けるか、同じ背景で共有するか、資料を調べつくして語れる生徒になっているかがポイントである。
- (2) 小学校の社会科では大仏の大きさを実感した上で天皇を中心とした政治が確立したことを学習することもあるが、中学校では文化遺産として大仏を扱うようにしたい。その中で大仏が作られたことをきっかけにして奈良時代の政治をとらえる学習を展開することは可能。
- (3) 生徒が自分事としてとらえ、地球市民として考える姿も見られるが、この単元は世界と比べた日本の地域的特色を大観する学習なので、今後の日本の諸地域の学習内容も加味して、コンパクトな学習展開にしたい。

### 討議3 社会的事象の意義を解釈し、価値を見いだしていくために

#### 1 レポート発表

- (1) 生徒が裁判員制度の意義をとらえるようにねらった実践（附属長野中）

#### 2 協議

- (1) 授業の最後に弁護士をゲストティーチャーとして迎えたが、学習の答え合わせとなってしまった。どのような話をしていただくか、事前に十分な打ち合わせが必要。

#### 3 指導者の先生のご指導

判決の内容と生徒の考えとのズレから裁判をする意味が見えてくる。意味が見えたところで、裁判の意義を見いだすという学習の流れは参考にしたい。また、ゲストティーチャーはあくまで資料の1つであるので、授業によりよく位置付くように工夫したい。

（文責者 阿南第二中学校 中村広登）

## 【第2分科会】

### 討議1 日々の授業づくりのあり方について

#### 1 レポート発表

- (1) 若者が選挙に行くにはどうすればよいのかを、有権者や立候補者、選挙管理委員会のそれぞれの立場に立って考えたり、グループで話し合ったりする活動を通して、主体的に政治にかかわろうとする意識を高めようとした実践。（立科中）
- (2) パフォーマンス評価を導入することで、子どもたちの思考力や判断力を評価し、授業改善をするための方策を明らかにし授業改善につなげていこうとした実践。（小諸東中）
- (3) 生徒が実感を伴った言葉で話し合いが行えるように、経験を踏まえて具体的に考えられる論題「部活動のグラウンド整備のあり方」を挙げ、人権を学習する導入とした実践。（上田第二中）
- (4) 北アメリカ州の農業の特色について、個人の予想に基づいて調べ学習を行い、ホワイトボードにまとめ、クラス全体で共有することで、個人の考えを深めようとした実践。（大滝中）
- (5) アジア州の学習のまとめとして、学習した内容をキャッチフレーズに表す活動を通して、アジア州の地域的特色をまとめた実践。（広陵中）
- (6) 近世から近代における時代の転換点を捉えるために、明治維新による変化を様々な観点から「変化のキーワード」を挙げて考えさせ、四コママンガの形式でまとめを行った実践。（鉢森中）
- (7) 承諾殺人罪を巡る相模原事件について模擬裁判を行い、得た情報を整理・総合し、裁判員裁判を解釈する活動を位置付けることによって、社会的事象の意義を解釈することのできる生徒を育成しようとした実践。（附属長野中）

#### 2 協議

- (1) 選挙に行くことによって、政治や社会をよりよくしていけるということを子どもたちが納得できないと、投票率を上げなければならない必要性が生まれてこないため、具体的な事例を挙げたり、権利獲得の歴史を十分に理解させたりする必要がある。
- (2) 限りある授業時数の中で、レポート作成などの言語活動やまとめの活動を行ったり、地域の問題を取り上げ考えていったりすることが大切である。
- (3) 人権の学習の導入として、「ちがいのちがいが」を扱うことはふさわしいのか、道徳との違いや取り上げる事例を検討する必要がある。
- (4) 学習問題に対して予想を立てる際に、多様な予想に対してそれぞれがどのような視点からの予想なのか構造化させたい。また、ジグソー法のように調べたことを考え合わせ、まとめることができるとよい。
- (5) キャッチフレーズにまとめる活動は、歴史的分野の各時代のまとめや、地理的分野の他地域のまとめにも応用できる上、短文で良いので取り組みやすい。継続的に取り組んでいくことで子どもたちに力をつけることができる。
- (6) 時代の転換点を子どもたちが四コママンガに表わせるよう、それぞれのコマに「変化する前後の様子」や「変化の内容」といったように、場面を設定したことがよかった。あらかじめ他の単元でも同様の活動を行っていき、子どもたちが学んだことをしっかりまとめることができる。
- (7) それまでの学習内容を総合させるのは難しい。弁護士の「自分の人生観や価値観に照らし合わせて、様々な立場から状況を判断すべき」という考えに流されてしまう子どもへの手だてを考える必要がある。

### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 主権者教育は「選挙」について学ぶ場面だけではなく、公民の政治の学習や歴史の市民革命の学習など、すべての学習で取り組んでいきたい。アクティブ・ラーニングを実施する際は、これまでの問題解決的な学習を大切に、「主体的」「対話的」「深い学び」の学習となるよう努力すべきである。
- (2) 単元の終わりにどのような力がついているかをあらかじめ考え、子どもたちが取り組みたい課題をつくり、方策を考えていくというのは、これまでの社会科の単元づくりと基本的に一緒である。学習の最後に、どのような子どもたちになって欲しいかを考えるところから授業づくりをして欲しい。
- (3) 導入段階なのでこれから学習する動機付けになればよいが、生徒の発言の中で「効率」や「公正」にかかわる発言や、ルールのある方に迫る発言を取り上げて、教師が意味付けていく必要がある。公民の学習を十分に確保するために、小・中の系統性を考えるなど、地理的分野や歴史的分野の内容の精選をする必要がある。
- (4) 子どもたちが調べた内容が、学習問題の答えになっているのかを教師が判断する必要がある。全体で共有する場にて、社会的事象の意味や意義を解釈する活動をする必要があった。子どもたちの既存の知識とのズレから学習問題を設定しようとする、教材研究の幅が狭まってしまう。比較や対比といった方法を使い、ズレを生む方法が有効である。
- (5) キャッチフレーズでまとめる活動は大切にしていきたい。短い言葉にまとめるのは子どもたちにとっては難しい。それぞれのキャッチフレーズの共通点を見いだしたり、関連させて新たなキャッチフレーズを作成したりと、思考過程を大切に指導したい。世界の諸地域を学習する際は、教師が最終的にどのようにまとめを書かせたいかを明確にしておく必要がある。
- (6) 単元展開が良くできているため、子どもたちもしっかりとまとめを行うことができている。単元でやることを単元の導入で明示すれば、最終的なまとめに向けて見通しをもつことができる。学習問題を「どのように変化したのだろうか」ではなく、「どのような変化をしたのだろうか」とすれば、近世から近代に時代が変化することによって、社会の変化とその過程がまとめていくことができただろう。

(7) 裁判員裁判の意義を解釈するのであれば、子どもたちが行った模擬裁判の振り返りを行わなければならなかった。これからの研究の柱は「総合」ではなく、事実をどのような見方や考え方で解釈していくのか、先行して研究をしていって欲しい。

## 討議2 日々の学習におけるまとめのあり方・授業構想のあり方について

### 1 協議

毎時間の授業で「まとめの時間」をとることは難しい。単元末では必ずまとめを行い、単元でつける力がついているのか、確かめることが必要である。授業で学習したことが定期テストに反映されるよう、教科会で検討をしていかなければならない。

まとめの時間を確保するために、講義式の知識の定着のための授業も必要である。ただし、定着させたい知識は、まとめの時にどのように生かされるのか、あらかじめ検討していく必要がある。

### 2 演習

目指す子どもの姿を明確化させ、そのためにどのような問いを考え、どのような事実を子どもたちが学習していけばよいのか、について計画していく、単元構想の逆向き設計を参会の先生方で体験した。

(文責 小諸市立小諸東中学校 中山 南斗)

## 【第3分科会】

### 討議1 生徒の認識のズレから生まれる学習問題と学習課題成立と、生徒が意欲的に追究する社会科学習のあり方について

#### 1 レポート発表

オーストラリアと中国との結び付きを考える場面で、前時にすえた学習問題を基にして、立場の奥にある事実認識のズレに気づき、本時の学習課題を生徒自らが考えながら、学習を深めた実践。(宮田中)

#### 2 協議

前時に学習問題をすえると、次の授業までに調べたい状況をつくり出すことができ、社会科の家庭学習につながる。自分が調べたことについては自信をもつことができ、より深い学習につながっていく。

#### 3 指導者の先生のご指導

思考・判断する学習問題はどうなっているかという事実認識をしながら、「なぜ」を考えていくことが大切。社会に見られる課題について、どのような風に解決していけばよいかを構想する力をつけていきたい。本時はオーストラリアの将来を考える授業であるため、視点が広がり過ぎる可能性がある。認識のズレを見いだして学習課題を据えるいくには、ズレを焦点化して欲しい。

### 討議2 必要感のあるグループ活動と評価のあり方について

#### 1 レポート発表

(1) 少子高齢化の影響についての意見を4人グループで互いに聞き合い、さらに伝え合うことで、問題について自らの考えを広げ、自らの考えに深まりをもたせた実践。(白馬中)

(2) 聖武天皇が東大寺や国分寺を建立した意図や、仏教によって人々は救われたのかを考える場面で、4人グループでの学習を通して、主体的にかかわり、考えを深めた実践。(豊科北中)

#### 2 協議

(1) 自分だけでは判断しきれない、調べきれないという生徒の思いがグループ学習に必要感を生み出す。少子高齢化への対策の有効性をランキング形式で考えさせると、グループでかかわり合う必要感が出てくるのではないか。

(2) 4人グループの場の設定だけではなく、4人グループで学び合う意味を全体で確認したり、個々の生徒の学びをつないだりする教師の支援が必要ではないか。根拠が明確な題材だと生徒は考えやすい。

#### 3 指導者の先生のご指導

ただ4人グループを組むのではなく、グループで探究したくなる必要感が欲しい。個が予想を持ったうえで学習課題の追究を行って欲しい。形を大切に組み込むのであれば、その意味を教師が示していく必要がある。

### 討議3 これまでの学習を基にして、根拠をもって判断ができる社会科学習のあり方

#### 1 レポート発表

- (1) 市長選を通して政策の有効性を考え、これまでの学習事実を基に価値判断を行い、地域社会への関心や自らの考えを深めた実践。(信明中)
- (2) 理科教科会の協力を得た体験的な学びを通してエネルギーの重要性を感じ、課題を見だし、課題に対する答えを自分なりの根拠をもって選択することで、自分の暮らしと結びつけながら社会的事象の価値を見出した実践。(附属松本中)
- (3) 黒船来航による開国の是非について4人グループで考える中で、一人ひとりが主体的に追究し、友とかかわり合いながら、これまでの既習事項と本時の学習を結びつけ、見方・考え方を広げ深めた実践。(三郷中)

#### 2 協議

- (1) 30年後の松本市を考えるのに、今年の市長選の候補者を題材にするのは時間的な隔りがあるが、考えを深めるうえでの一つの視点とするよい手立てである。
- (2) 他教科とも絡む横断的な学習ができるよい題材である。また、生徒自らが判断し、決断せざるを得ない授業展開がよかった。
- (3) 意見を出すことを苦手とする生徒の対応を考えられるとよい。

#### 3 指導者の先生のご指導

- (1) 30年後を考えるならば、生徒一人ひとりの30年後の具体的な立場を明確にしておく、立場から必要な政策を見だし、政策の中身をより具体的に考えることができる。
- (2) 教科横断型の授業であり、起業家教育・キャリア教育につながっていくものである。地理分野以外でも、歴史的事象と現在の政策のつながりを考える際に、地理や公民分野、もしくは他教科との連携が可能であるから、単元のねらいを学習指導要領をふまえて明確にした上で実践して欲しい。
- (3) この生徒のこの発言が、どのように変化したら考えが深まったと言えるのかを教師が把握しておくことが大切。考えが深まった裏には何があるのかを精査し、今後の学習につなげていって欲しい。

### 討議4 様々な視点からとらえた情報の整理・活用のさせ方と社会的事象の意義を解釈していくための手立てのあり方。

#### 1 レポート発表

模擬裁判において、観点を明確にして読み取ったことを比較し、関連させ、それらを統合することで、社会的事象に対する見方や考え方を広げ、自分の考えとして解釈する力を育もうとした実践。(附属長野中)

#### 2 協議

裁判員裁判ではない事例を用いて、裁判員裁判の必要性を考えたのがよかった。終末に弁護士の話を入れることで、答え合わせのようになってしまい、生徒の意見が左右されてしまう恐れがある。

#### 3 指導者の先生のご指導

比較・関連に関しては、観点が整理されていてテーマに迫った取り組みができていた。実際の評議の場面を想定した授業展開ができていた。観点を総合する際に、専門家の弁護士による結論が示されると、生徒にとっては答え合わせになってしまう。弁護士による指導は生徒たちの価値判断について認めてもらう程度にしておき、教師が板書等で整理していくことで総合していったらどうか。

(文責者 三郷中学校 武井正樹)

## 【第4分科会】

### 討議1 社会科学習における学習カードのあり方

#### 1 レポート発表

(1)生徒が構造的に授業の記録をまとめられるように、穴埋め式と資料追究式を複合した学習カードを使った実践。(小布施中)

#### 2 協議

(1)予想を書くことができる欄を用意して、生徒の追究の道筋が見える形式にしていくことが必要ではないか。

(2)教師が書き方を制限する学習カードのメリット、デメリットの双方を考えたい。生徒の書き方を制限してしまうことには気をつけて、「書く力」をつけさせていきたい。

(3)資料提示の仕方については、教師が意図をもったものにしたい。導入も資料提示を工夫することで生徒の追究意欲にもつながっていくのではないか。

#### 3 指導者の先生のご指導

学習カードを考えていくことは、授業構想にそのままつながる。ねらいや意図に合わせて、学習カードの形態は考えていくことが必要。ただし予想を書かせることは大切にして欲しい。「見とどけ」の指標にもなり、また予想を基に追究を振り返ることが、「学び方を学ぶ」ことにつながる。

### 討議2 歴史的分野において多面的・多角的に考察する力を高める指導のあり方

#### 1 レポート発表

(1)藤原氏が権力をもった理由について、より多面的に考えられるように、天皇のかかわりという視点に加え、他氏排斥という視点からも説明することができるように目指した実践。(浅間中)

(2)「明治時代はなぜ近代化したのか」という学習問題を据え、「政策」「体制」の観点ごとに学習を深めた後、意見交換の場を仕組み、友の考えを参考にしながら多面的・多角的な理解に基づき、近世から近代の転換を捉えていく実践。(穂高東)

#### 2 協議

意見交換の場の形態を考えることも大切だが、より主体的に追究をしていけるような導入を考えていくことも必要ではないか。

(1)各自に責任感をもたせる「ワールドカフェ」という学び合いの形態はよかった。ただし根拠が似ているような状況であると、主体的に学習に臨めないで、追究の観点の再考が必要。

(2)たくさんの追究資料があるのは魅力的であるが、資料を厳選し、じっくり扱えるようにしていくことも必要である。

#### 3 指導者の先生のご指導

時代を大観し、時代の転換を捉えていくことが必要。断片的な知識の学習で終わるのでなく、その知識理解を基に、政治や時代の大きな特色や変化を捉えていくことをねらって欲しい。地理的分野に例えるなら、動態地誌的な学び方と捉えることもできる。

### 討議3 社会的事象に対する見方や考え方を高める協働的な学習のあり方

#### 1 レポート発表

(1)地域教材を公民の「地方自治」の単元に組み込み、生徒の学習意欲を喚起し、主体的、協働的に学習していった実践。(飯田東中)

(2)憲法改正の是非について、ディベート形式の意見交換の場を設定し、協働的な学びを通して、社会的事象について、多面的・多角的な追究をしていった実践。(高森中)

#### 2 協議

(1)生徒一人一人の思いを教材化していくような地域教材は魅力的である。ただし個々の思いに軽重があることが難点でもある。同じスタートラインに立って学習に入っていくことが、協働的な学びにつながっていくのではないか。

(2)2学年の「身近な地域の学習」で扱い、その後3学年の「地方自治」で扱うことで、多面的・



多角的な学習になるのではないか。また実際に社会参画として、地域に還元していく意識をもたせることもできるのではないか。

(3) ディベート形式の活動では、根拠となる資料を明確なものにしたい。

(4) 明確な根拠や、正しい理解がないと、教科の学習としては不十分だと思うので、学習すべき知識をしっかりと学習した後、特設の1時間として意見交換やディベートの場を仕組むことが適切ではないか。

### 3 指導者の先生のご指導

(1) 「教師が貼り付けた力ではなく、子供が自ら獲得していく力を大切にしていく」という視点で協働的な学びは必要ではないか。地理学習でつけた力の総決算として身近な地域の学習を大切にしていって欲しい。いきなりディベート形式のような二項対立の学習問題を設定しても、深まりが見られない場合もあるので、単元の中でどのように位置付けたらよいか、設定には気を付けなくてははいけない。事実認識をしっかりとした上で、思考判断を問うていきたい。

## 討議4 社会的事象の意義を解釈したり、価値を見いだしたりすることができる社会科学習のあり方

### 1 レポート発表

(1) 相模原事件模擬裁判を通して得た情報を、観点に沿って整理し、それらを総合して裁判員裁判の意義を考える活動を位置づけ、社会的事象の意義を解釈することのできる生徒の育成を目指した実践。(附属長野中)

(2) 発電方法の比率や、電気料金の値段の違う数社から、自分が契約したい1社を選ぶ学習を通して、自分の暮らしと結びつけながら、社会的事象の価値を見いだしていくことを目指した実践。(附属松本中)

### 2 協議

(1) 実際の裁判の流れを追体験できる学習は、意義を考える上で、実感に基づいて学習できるのではないか。

(2) 裁判員裁判の一審が覆ることもあり、もう一つ深く裁判員裁判の意義について考えていくことも大切ではないか。

(3) 自分のやっていることが、未来の地球につながっていく実感があることは魅力的である。

### 3 指導者の先生のご指導

教師が、社会的事象の価値や意義を明らかにしていることは大切なことであり、単元を貫く問いがしっかりと据えられていることが必要である。2つの実践ともに、自分なりに気付き、社会認識をもった状態から、更にもう少し大きな意義に気付き、深めることができるのではないか。生徒の思考を先回りして考え、資料のデータを変えている配慮があるが、それ自体も実在する大切な事象であるので、その実在も含めて意義を考えていきたい。自ら問いを発し、学ぶ姿が育っている。主体的な学習の積み重ねを感じる。

(文責者 穂高東中 中村 大樹)

## V 本年度の反省と来年度への方向

### ◎本年度の反省

項目	内容
◎本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よい。来年度も継続したい。</li> <li>○知識、理解だけではなく「表現」にも観点がおかれている点が良い。</li> <li>○様々な観点から考えることのできるテーマであり、大変よい。</li> <li>○様々な社会的事象に対して自分の考えをもち、学んだことを伝えていくことはとても重要であり、本研究テーマを追究していきたい。</li> </ul>
◎研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各校の研究が具体的であり、大変学ぶことが多かった。</li> <li>○明日からの日々の実践に生かせる内容であった。</li> <li>○アクティブラーニングや学習カードの形式など、各校の実践例から学ぶことが多々あった。</li> </ul>

	○「表現」にかかわる実践事例から学ぶことが多かった。
○研究の方法や経過について	○参加者の発表から、新たな研究方法を学んだ。 ○十分な教材研究から新たに知ることが多かった。 ○単元を貫く学習問題をいかに設定すべきか学んだ。 ○主事先生のご指導により、研究の改善点が把握できた。 ○実物を通して学習問題から学習課題へと展開する点が勉強になった。 ○グループ活動の在り方について学んだ。
○研究会当日の運営について	○生徒の挨拶や対応がとてもよかった。 ○分科会の人数をさらに多くして、先生方のご意見を聞きたい。 ○当日配布のレポートを読み込んで検討する時間が欲しい。時間的な配分をさらに検討していただけるとよい。
○研究集録等のWebページ掲載について	○ホームページで内容がわかるのは、大変ありがたい。
○本年度運営全般について	○若い先生の参加が多く、日常的な授業内容を話し合えてよかった。 ○丁寧に当日までの連絡をしていただき、とても助かった。 ○質問したことに、すばやく返答していただき、ありがたかった。 ○司会者としては、事前のレポート提出が少ない点は、改善していただけるとありがたい。

#### ◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	○本年度の継続でよい。 ○次期学習指導要領に向けた内容にかかわる研究テーマを考えたい。 ○「表現」の評価について、考えたい。 ○社会的な見方・考え方にかかわる研究をお願いしたい。 ○知識構成型ジグソー法やアクティブラーニングの事例から考えたい。
○来年度の研究の趣旨	○社会的な見方・考え方をどのように支援していくか考えたい。 ○グループ活動の在り方について考えたい。
○来年度の研究の方法	○グループ活動を通して、社会的な見方・考え方を高める実践事例を多く扱い、どのように支援すべきか考えたい。 ○発表者全員がレポートを持参し、学び合う形式は継続したい。 ○日常の授業における課題を出し合い、学び合う場を大切にしたい。
○その他、改善したい点	○レポートを読み込む時間を確保したい。 ○レポートが無くても参加できるか検討したい。 ○遠方からの参加者に配慮して、開始時刻を遅くできるか検討したい。 ○分科会の人数を多くして、先生方の意見が聞けるようにしたい。

## VI あとがき

本年度社会科では、多くの先生方に参加していただき、実践レポートや生徒の学びの姿や評価の在り方が分かるワークシート、日々の授業の中で試行錯誤しながら研究を重ねた実践を発表していただき、数多くの提案や討議をしていただきました。

研究会を振り返ってみますと、生徒の実態に応じた単元展開の研究や教材の工夫を紹介していただきました。その中で、明日からの実践に役立てたい、生徒の学びを深めたいと熱心に学ぶ先生方の姿がありました。また、授業実践の中での悩みを全員で共有し、解決しようとアドバイスし合う姿もありました。このように連合教科研究会の中身が深まったのも、先生方が日々の授業の中での成果と課題を明確にして参加し、積極的に社会科教育について語り合おうとしていただいたことによります。参会された先生方には心より感謝申し上げます。指導者の喜多篤史先生、畑邦弘先生、牧野孝裕先生、田中篤先生には、すべてのレポート発表に対して温かく、示唆に富んだご指導をしていただきました。司会者の井出岳先生、山浦光雄先生、和田佳司先生、白井克典先生には、綿密に進行計画を立てていただき、研究協議を深めていただきました。記録者の中村広登先生、中山南斗先生、武井正樹先生、中村大樹先生には、研究会後もご尽力いただき、貴重な記録を克明に残していただきました。ここに深く感謝申し上げます。

来年度も県下各地の先生方の社会科教育への熱い思いが込められた教材、生徒の事実に根ざした授

業分析と出会えることを楽しみにしています。先生方の一層のご発展をお祈りし、御礼といたします。  
ありがとうございました。

委員長 小池 克昌  
副委員長 荻原 拓